

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構の業務執行状況

平成19年度沖縄科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成19年度上半期業務執行状況
<p>1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <p>(1) 研究活動</p> <p>シーサイドハウスの改修スペースに、いくつかのグループを収容することができることから、数理生物学・計算生物学の分野での研究者の募集を引き続き行う。</p> <p>霊長類脳科学センターのための研究者募集を平成19年の夏の終わりから行う。これについては、大学院大学に対する国外の研究者の参加を維持し、さらに拡大することができるよう幅広く行う。</p>	<p>2007年4月にシーサイドハウスに計算脳科学ユニットを立ち上げた。</p> <p>更に、研究者の募集を行い、4名の候補者に面接を実施した。うち2名は不合格、1名は辞退した。残る1名のシーサイドハウスにおける2番目の研究ユニットへの採用の可否について検討中である。</p> <p>現在、霊長類神経科学研究及び脳機能イメージング研究を行う霊長類脳科学センターの研究者募集を行っており、募集広告を以下のとおり掲載した結果、現在までに霊長類神経科学研究に10名、脳機能イメージング研究に8名の応募があり、外部の専門家を含む委員会により選考中である。</p>

平成19年度沖縄科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成19年度上半期業務執行状況
<p>銅谷・柳田の2研究ユニットの研究評価について、他の代表研究者の評価と併せて今年度に行う。</p> <p>外部の評価委員を選任し、それぞれに評価委員会を設置する。</p> <p>評価対象研究ユニットは研究成果の報告書を作成し、これに基づき、評価委員会が研究評価を行う。</p>	<p>(参考) 募集広告を掲載した媒体</p> <p>科学雑誌：ネイチャー、ネイチャー・ニューロサイエンス、サイエンス</p> <p>ウェブサイト：当機構HP、ネイチャー、ネイチャー・ニューロサイエンス、サイエンス、生理学研究所HP、日本神経学会HP</p> <p>銅谷・柳田の2研究ユニットの研究評価委員としてそれぞれ5名が任命された。銅谷ユニットの評価委員会の議長はノーベル賞受賞者のトーステン・ヴィーゼル博士、柳田ユニットの評価委員会議長はノーベル賞受賞者のティム・ハント博士が就任し、それぞれの評価作業が進められているところである。</p>

平成19年度沖縄科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成19年度上半期業務執行状況
<p>(2) 研究成果の普及</p> <p>引き続き I R P (大学院大学先行研究プロジェクト)の活動をとりまとめた年次報告書を作成する。</p> <p>機構の多くの研究者による内外での講演、沖縄のコミュニティにおける広報活動の更なる充実を図る。</p>	<p>平成19年6月4日に2006-2007版年次報告書を発行し、研究機関、中央官庁、地方公共機関、訪問者等に配布した。</p> <p>講演会、運営委員会に関する行事 「添付資料1-(2)-2 活動リスト」を参照。</p> <p>公式行事</p> <ul style="list-style-type: none"> - 第4回運営委員会夕食会（招待者：沖縄県副知事、恩納村長、琉球大学学長、名桜大学学長）7月9日 - 恩納村長表敬訪問（訪問者：フリードマン博士、尚博士、李博士）7月10日 - 恩納村立山田中学校訪問（訪問者：フリードマン博士、尚博士、李博士）7月10日 - 琉球大21世紀フォーラムにて講演（講演者：李博士）7月10日 - 恩納村立恩納中学校訪問（訪問者：フリードマン博士）7月10日 <p>4月6日に地元関係者を招待して、沖縄科学技術大学院大学（仮称）施設整備事業起工式典を開催した（出席者約120名）</p> <p>9月3日に発足二周年記念式典を開催した（出席者約80名）</p>

平成19年度沖縄科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成19年度上半期業務執行状況
<p>(3) 研究者養成活動</p> <p>計算神経科学コースを、引き続き開催する。今年度以降、順次、このコースを受講する学生の単位取得機会の拡大を図っていく。</p>	<p>O C N C 2007</p> <p>2007年6月26日～7月11日</p> <p>講師18名、チーチャー10名、学生30名</p> <p>以下の2大学が、博士課程の学生によるOCNC2007の受講を、(修了要件としての)単位として認定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ドイツ Albert-Ludwigs-University Freiburg (アルバート・ルートヴィヒス・フライブルグ大学) - フランス Université Pierre et Marie Curie (ピエール&マリー・キュリー大学) <p>O C N C 2008(予定):</p> <p>2008年6月16日～7月3日</p> <p>講師15名、チーチャー10名、学生30名</p>

平成19年度沖縄科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成19年度上半期業務執行状況
<p>(4) 大学院大学設置準備活動</p> <p>大学院大学の具体的な設立準備に着手するため、理事長の指揮の下で検討・調査すべき一連の課題を特定した。これらについて、明確なタイムテーブルに従い取り組んでいく。</p> <p>研究活動の調整を行うことができるよう、大学院大学設置に向けた組織作りを引き続き行う。</p> <p>脳科学、数学・計算科学、分子科学の3つのファカルティーを設立し、代表研究者は、1つ以上のファカルティーのメンバーになることができるこことする。</p>	<p>機構の事務局組織改編の一環として、10月に「企画部」が設置され、大学院大学の設立準備に重点的に取り組むこととなった。</p> <p>理事長、理事、代表研究者(3名)、部長(2名)をメンバーとする「大学院大学設立準備グループ」が機構内に9月に設けられた。同グループは、大学院大学の在り方について、提言を行うこととしている。</p> <p>日本国内の大学院大学の現状、国立大学・私立大学の教育研究組織、関係省庁が協力している私立大学について調査を行う。</p> <p>沖縄大学院大学のモデルとなる海外の大学に関する情報収集を行うための準備を進めている。</p> <p>年度計画において設立することとしていた「ファカルティー」については、「大学院コミッティー」と名前を変えて設立することとした。まずは、脳科学、数学・計算科学、分子科学の3つの大学院コミッティーを設立することとしている。</p>

平成19年度沖縄科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成19年度上半期業務執行状況
<p>(5) 施設整備</p> <p>メインキャンパス林道沿いの民有地買収に着手する。また、グランドパークの未買収用地（二地権者）については、買収交渉を引き続き行う。</p> <p>造成工事（1期）を年度前半に完了させ、年度後半からラボ-1及びセンター棟の建設工事に着手する。</p> <p>年度の前半に造成工事（2期）に着手し、ラボ-2建設用地の造成工事を完了させる。</p> <p>橋梁工事（5, 6, 7号橋）を完成させる。</p> <p>ヴィレッジ・ゾーンの宿泊施設に関しては、PFI方式による施設整備の可能性を引き続き検討する。</p> <p>シーサイド・センターの施設整備に関しては、ゲスト用宿泊施設の設計及び工事に着手する。</p>	<p>林道沿いの民有地買収については、全て完了した。グランドパークの未買収用地（二地権者）の中の一地権者に関しては買収完了済みで、9月末現在、一地権者のみ未買収で残っている。</p> <p>ラボ-1及びセンター棟の敷地の造成工事は、10月末までに完了の予定。</p> <p>造成工事（2工区）は7月末に着工済み。平成20年3月末完了の予定。</p> <p>7号橋に関しては、8月に発注済み。5,6号橋に関しては、11月に発注予定。</p> <p>PFIコンサルタントと契約するとともに、機構内にPFIワーキングチームを設置し、実際のオペレーションや施設のメンテナンス等に関する検討を開始した。</p> <p>ゲスト用宿泊施設（4棟）に関しては、9月に実施設計を完了し、10月中旬に着工済み。また、残り4棟に関しては、12月に実施設計を完了させ、平成20年1月末に着工の予定。</p>

平成19年度沖縄科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成19年度上半期業務執行状況
<p>2 業務運営の効率化に関する目標を達成するためによるべき措置</p> <p>(1) 管理運営及び財務</p> <p>事業拡大を計画通り円滑に進めるため、事務組織の改編を引き続き行う。</p> <p>現行の全ての規程等について、外部監査機関による点検を行い、法令遵守の観点から必要に応じ適宜改正を行う。</p>	<p>機構の業務目的である、1)研究開発及び2)沖縄における大学院大学の設置準備を遂行するに際し、運営の効率性を向上させるため、10月1日付で管理部門の組織改正を行い、企画部と事業推進部を設置した。加えて、人事、ワークショップ管理、財務、ロジ支援、広報及び研究支援の部門を強化するため、専門性の高い職員を採用した。</p> <p>規程等の点検等については、外部監査法人による業務運営の総点検を行い、9月に結果を公表した。その報告を踏まえ、諸規定の見直し・整備を進め、以下の規程については、新たに策定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートタイマー就業規程 ・準研究員就業規程 ・任期制職員給与規程 ・育児介護休暇規程

平成19年度沖縄科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成19年度上半期業務執行状況
公共工事及び調達に係る手続きについては、適切な文書管理、経費削減及び透明性確保の観点から改善を行うこととし、随意契約に代えて、一般競争入札を積極的に導入していくこととする。	公共調達の透明性の確保及び一般競争入札の拡大を目的に、本年8月1日付で随意契約によることができる基準額を引き下げた。 工事（予定価格） 10百万円未満 5百万円未満 財・役務（予定価格） 5百万円未満 3百万円未満
新たな区分システムの導入と現行の統合業務システムの財務データシステムの改良により、研究事業の予算及び執行状況の管理を行う。	文書管理については、文書管理担当者を対象とした職員の研修（5月）関係部署の会議、文書審査の実施等を的確に実施することにより、厳正な文書管理の運用を徹底した。
経費削減や業務の効率化を図ることができる場合は、特定の業務について外部委託の導入を検討する。	研究活動の予算及び執行状況に係わる効果的管理に向けた新たな区分システムと財務データシステムのあり方につき、現在検討中。 業務量削減、業務効率及び精度の向上、災害時等に備えた危機管理体制の確立を目指し、給与処理業務アウトソースの実施を決定した。2007年10月初旬より導入作業を開始、2008年2月には全作業を終了し、本格稼動する予定である。 経費削減を図るため、平成18年度に引き続き実験動物飼育

平成19年度沖縄科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成19年度上半期業務執行状況
<p>事業拡大を支援する優秀な技術スタッフ及び事務スタッフの採用活動を引き続き行う。</p>	<p>管理業務、研究事業所の建物管理及び清掃業務の外部委託を行なっている。 今年度からは、新たにメキシコサラマンダーの増殖業務についての外部委託を開始し、業務の効率化を図っている。</p>
<p>職員の業務評価制度の改善を図るとともに、定例化を図り評価に必要な書類を整備する。</p>	<p>人事、ワークショップ、財務、ロジスティック支援、広報及び研究支援において、経験者雇用に成功してきた。加えて、4職種（財務、人事、ワークショップ及び超高性能コンピュータ管理者）にて広く経験者採用の募集を行った。多くの候補者のうち、ワークショップ担当者及び高性能コンピュータ管理者は採用者を決定している。 また、研究支援体制拡充のため、2008年4月より1名の新卒博士号取得者を雇用する。</p> <p>職員の業務評価制度は、2007年3月に導入され、上司と面談して決められた業務目標により、評価されている。この結果はすでに2007年度の給与に反映され、年に一度、レビューを実施する予定である。また、今後、この評価制度を精査し、多様な評価方法の導入の可能性及び現行システムの改善を図っていく予定である。</p>

平成19年度沖縄科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成19年度上半期業務執行状況
<p>研究者及び一般国民の双方にとって、機構の最新の事業内容が適時に反映されるようホームページを改善することにより、広報活動を充実させる。また、リーフレットその他の印刷物の内容を更新するとともに、ニュースレターを定期的に発行する。</p>	<p>ホームページについては、法律で義務付けられている情報（年度計画、財務諸表、評価委員会結果報告書など）の公開を適時に行なうとともに、また、キャンパスサイト建設工事の状況を写真で紹介するページの開設や、研究活動、ゲストの来構、式典の開催といったイベントの紹介ページを拡充し、定期的に更新することで、広報機能の強化を図った。また9月にはニュースレター第2号を発行し今後三ヶ月に一度のペースで定期的に発行する予定である。</p>
<p>情報公開請求に対する適切な手続きを確立する。また、国民に正しい情報を伝える観点から、必要に応じ記者会見を開催することとする。</p>	<p>情報公開については、機構の情報公開規程を策定するなど、既に例規や体制が確立されているところであり、情報公開請求に対しても適切な手続きを行う体制は整っている。</p> <p>4月3日にはシーサイドハウスにおいて記者会見を開催し、理事長からプロジェクトの進捗状況を説明した。</p> <p>7月9日、沖縄で初めて開催された運営委員会本会合後、共同議長二人による記者会見が行われ、会合の内容などについて発表がなされた。</p>

平成19年度沖縄科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成19年度上半期業務執行状況
<p>ワークショップやセミナーの運営、シーサイドハウスの施設利用については、能率向上のため、一括管理により行うこととする。</p> <p>(2) 運営委員会関連</p> <p>研究活動及び大学院生対象の教育活動を進展させるための計画とタイムテーブルについては、理事長が運営委員会と協同で取り組む。</p> <p>今年度中に運営委員会を2回開催し、そのうち1回は、沖縄で開催することとする。</p>	<p>現在はワークショップ担当者がワークショップやセミナーの運営および予算管理をし、シーサイドハウス施設利用の予約はグループウェア上で行い、一括管理している。大学院大学の開学時点では、大規模な施設を管理するためのシステムが必要と考えられ、低価格で簡易なシステムの導入を検討中である。</p> <p>運営委員会の共同議長であるトーステン・ヴィーゼル博士が本年10月10日から16日まで機構を訪問した。滞在中に、博士は、機構の理事及び代表研究者と会合を持ち、新大学院大学の計画に含めるべき教育研究上の検討課題をより精緻なものとすべく議論を行った。これは、また2008年1月25日の次回運営委員会会合における主要な議題となる予定である。</p> <p>今年度の委員会開催</p> <p>1回目：2007年7月9日 沖縄県万国津梁館</p> <p>2回目：2008年1月25日 東京都内ホテル（調整中）</p>

平成19年度沖縄科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成19年度上半期業務執行状況
3 予算、収支計画及び資金計画	(中期決算は行っていない)
4 短期借入金の限度額 上限10億円。	(借入れ実績はない)
5 重要な財産の処分等に関する計画 計画なし。	(計画なし)
6 剰余金の使途 研究事業の充実及び研究環境の整備に充てる。	(必要に応じ検討対象とする)
7 その他内閣府で定める業務運営に関する事項 (1)積立金の処分に関する事項 計画なし。	(計画なし)

ワークショップ

「逆問題とバイオロジー」4月 20~22日 シーサイドハウス

講師 9名、参加者 22名

「沖縄計算神経コース (OCNC) 2007」6月 26日~7月 11日 シーサイドハウス

講師 18名、チューター10名、参加者 30名

当初の予定 (7月 13日終了) は台風により短縮されました。

共催ワークショップ

「脳と心のメカニズム」8月 23~24日 札幌市

運営委員会委員による講演

沖縄計算神経コース 2007 「素粒子物理学と宇宙論」

ジェローム・フリードマン博士 7月 7日 シーサイドハウス 参加者 30名

沖縄計算神経コース 2007 「視ることは学ぶのか。脳発達における先天性と後天性の役割」

トーステン・N・ヴィーゼル博士 7月 10日 シーサイドハウス 参加者 30名

琉球大学 21世紀フォーラム「エネルギー、環境、社会」

李遠哲博士 7月 10日 同学内 参加者 250名

沖縄県立那覇高等学校講演会「視ることは学ぶのか。先天性と後天性の役割」

トーステン・N・ヴィーゼル博士 10月 15日 同校内 参加者 1,500名

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター講演会「基礎科学は臨床医学に貢献できるか」

トーステン・N・ヴィーゼル博士 10月 15日 同センター内 参加者 200名

OIST セミナー

「学習理論とバイオロジーレベル」

カリフォルニア大学バークレー校アンソニー・ベル博士 IRP 4月 24日

「系統遺伝学的な挿入欠失の定量的評価と有胎盤哺乳類の起源」

サウスカロライナ大学ピーター・ウォデル博士 IRP 4月 24日

「ネットワークの社会構造を検知する新しい方法」

CAS-MPG コンピュテーションナル・バイオロジー・パートナー・インスティテュート

アンドリアス・ドレス教授 (上海) IRP 4月 25日

「ピアノ、プラント、パスタ：数学への影響」

ロバート・S・アンデルセン博士 IRP 4月 25日

「標的となる嗅覚」ロックフェラー大学ピーター・モンペアーズ博士 IRP 4月 26日

「大腸菌の主要酸性リン脂質が及ぼす遺伝子発現制御への影響」

埼玉大学 長濱秀樹博士 OITC 5月 10日

「オペラント条件付け学習の神経系分子構造」

テキサス医科大学ヒューストン校ジョン・H・バーン博士 OITC 5月 14日

「ミクロ RNA：尺度不变性から幹細胞まで」

ベイラー医科大学ジョナサン・ミラー博士 IRP 5月 30日

「技術セミナー」GE 横河メディカルシステム株式会社アライ・ノリオ氏 IRP 7月13日
「何がドーパミン細胞を停止させるのか」
オタゴ大学ブライアン・ハイランド博士 IRP 7月18日
「スパイキングニューロンを使用したベイズ推論」
オタゴ大学マイケル・ポーリン博士 IRP 8月6日
「技術セミナー」GE 横河メディカルシステム株式会社アライ・ノリオ氏 IRP 8月10日
「学習と記憶：エストロゲン関連遺伝子による性分化および情動的な行動制御」
筑波大学 小川園子博士 IRP 8月24日
「意志決定から依存症まで：海馬と線条体における新しい神経生理学的観察からの推測」
ミネソタ大学 A・デイヴィッド・レディッシュ博士 IRP 8月27日
「結び目理論から分子生物学まで」韓国科学技術院ナファー・チビリ博士 IRP 9月4日
「樹枝状ダイナミクス」および「権力と指導力への道」
ジェンサイ e テック (インド) アシャ・ゴピナサン博士 IRP 9月5日
「歯状回における神経発生の機能的解釈」
インスティテュート・フォア・セオレティカル・バイオロジー
ピーター・アップルビー博士 IRP 9月12日